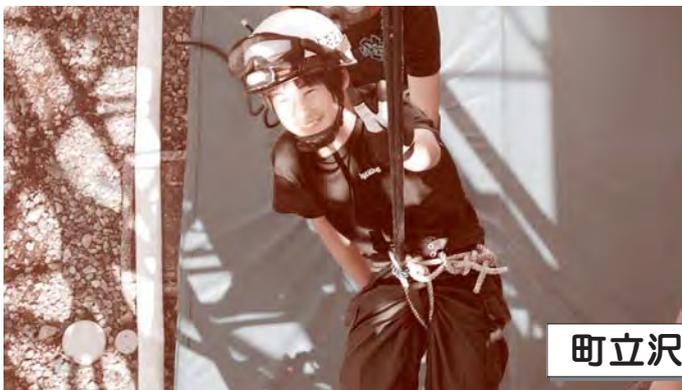




県立西和賀高校



町立湯田中学校



町立沢内中学校



目指せ、未来の消防士!

毎年、夏の時期になると、中学校や高校では「総合的な学習時間」の一環として、職場体験が行われます。

西和賀消防署では、西和賀町内の各学校から希望する生徒を受け入れました。

職場体験では、消防車からの放水や、救助・救急資器材を使用しての取扱い訓練、ロープ結索などを汗を流しながら行いました。

体験した生徒から、「消防士になりたいという憧れだけではなく、体力、知力のほかにチームワークも大切だと感じた。」という感想が聞かれました。

防火絵画展開催

北上市内の幼稚園の5歳児が描いた消防車や救急車などの防火絵画を11月8日から15日までの8日間、江釣子ショッピングセンターパルで展示いたします。

園児たちの力作を、ぜひご鑑賞ください。



県央地域5市7町が共同運用する岩手県央消防指令センター

消防力をさらに強化し、住民の生命と財産をあらゆる災害から守ります

119番通報のポイント

いざというとき、落ち着いて対応できるように、119番通報のポイントを紹介します。

① 固定電話(コードレス電話機を含む)から、優先的に通報する。

通報している電話の正確な位置情報が得られ、要請場所を特定する時間の短縮になります。

② 消防車や救急車が向かう住所を落ち着いて答える。

住所は必ず市町名から伝えてください。

③ 通報後は、ほかへの電話を控える。

指令センターからかけ直すことがあります。消防隊や救急隊が到着するまでは、ほかへの電話は控えてください。

④ 危険を感じたら、すぐ避難する。

通報中、煙や火などが迫ってきたら、すぐに避難してください。



《住所や場所がわからないときは》

① 目標となる大きな建物やバス停、コンビニエンスストアなどの名前を伝えてください。

② 近くの家に助けを求め住所をたずねるか、住民に119番通報をするように依頼してください。

③ 自動販売機に設置場所の住所が書いてある場合があります。貼り付けられているステッカーの住所を確認して、伝えてください。

記入例

この住所は、
岩手県北上市〇〇町
〇番〇号です。



3消防本部の119番通報受付共同化が始まる

「岩手県央消防指令センター」は、北上地区消防組合消防本部、盛岡地区広域消防組合消防本部、奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部の3消防本部管内における119番通報の受信や出動指令、消防車や救急車の無線管理などの通信指令業務を共同で行う消防指令センターで、盛岡市にある盛岡中央消防署内にあります。

3消防本部管内からの119番通報はすべて消防指令センターで受信し、災害場所を特定した後、管轄する消防本部や消防署へ出動指令をすばやく行います。

共同運用を行うことで、業務の効率化が図られるとともに、各消防本部の連携及び情報の共有化が可能となり、となり合う地域や大きな災害時に互いに助け合えるような体制の充実強化が図られています。



消防指令センターの職員は、3消防本部からそれぞれ派遣され、北上地区消防組合から5名、盛岡地区広域消防組合から18名、奥州金ヶ崎行政事務組合から5名のセンター長以下28名の職員が交代で対応しています。

消防指令センターの運用開始以降、1日に約150件の119番通報があり、出動指令件数(火災や救急等)は1日約70~100件となっています。



広域災害への対応
(平成28年機体更新した岩手県防災ヘリコプターひめかみ)



3消防本部との連携
(奥州消防との連携した現場活動)



大規模災害への対応
(平成28年台風10号による岩泉町での活動)



出動隊への指令



指令センターと交信する指揮隊



無線交信する隊員

岩手県央消防指令センターの特長

- ◇ 広域災害や大規模災害への効果的な対応
- ◇ 3消防本部間の連携の強化
- ◇ 人員の配備や施設などの効果的な運用
- ◇ 迅速な相互応援出動
- ◇ 複雑多様化した消防需要への対応
- ◇ 消防体制基盤の強化

全国消防救助技術大会

8位入賞!!

8月24日、愛媛県松山市で開催された第45回全国消防救助技術大会に、岩手県代表として北上消防署和賀中部分署の三浦昭消防副士長と高橋壮汰消防士が、「ロープ応用登はん」種目に出場しました。

和賀中部分署から全国大会への出場は初めてでしたが、全国から集まった49チーム中、10秒0のタイムで8位入賞を果たしました。

同種目は、高所進入を想定し2人1組で協力し、器材を使わず、吊るされたロープを15メートル登り、タイムを競う競技です。

競技を終えた2人は、「全国優勝を目指していたため悔しい気持ち強いが、大会を通じて学んだ事を今後の北上消防の救助技術の発展にいかしていききたい。」と大会を振り返りました。

大会前訓練の様子



大会終了後の三浦昭（写真右側）と高橋壮汰

なお、今大会の同種目では、京都府代表が8秒8のタイムで優勝しました。

新人消防士の紹介

今年4月に新しく採用された5名の消防士は、岩手県消防学校で6か月間の教育訓練を修了し、『信頼される消防士』を目指し、消防署での勤務を始めました。

べつしよ あきら
別所 彬(22)
(遠野市)



ささき りつ
佐々木 律(18)
(北上市二子町)



たかはし しゅんすけ
高橋 駿介(22)
(北上市上江釣子)



はちや りょうだい
蜂谷 凌大(18)
(北上市大堤北)



ささき たかひと
佐々木 貴仁(18)
(北上市黒沢尻)



消しましょう

その火 その時 その場所で

11月9日から15日まで、全国一斉に秋の火災予防運動が繰り広げられます。

これからますます寒くなり、暖房器具を使用する機会が増えてきます。

暖房器具を使用する前には点検掃除を行い、使用中は燃えやすい物などを近くに置かないようにしましょう。また、ストーブに給油するときは、必ず火を消してから行いましょう。

10年たったら、とりかえる!

住宅用火災警報器の設置が義務化となつてから10年が過ぎました。住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感じなくなることがあります。

住宅用火災警報器の交換の目安は10年。

ボタンを押す、またはひもを引いて作動確認し、音を聞いてみましょう。音が鳴らない場合は、電池切れか、機器本体の故障です。

まず、第一に住宅用火災警報器を設置すること。そして、しっかりと

維持管理も行い、大切

な命を火災から守りましょう。



【とりカエル】